第44回「全日本中学生水の作文コンクール」
宮 城 県 地 方 審 査 会 優 秀 作 品 集

『水』について考える

宮　城　県

はじめに

水は命の源です。水は，私たち人間だけでなく地球上のあらゆる生物にとって欠くことのできない貴重な資源です。また，使えばなくなってしまう石油などの化石燃料とは異なり，太陽の恵みによって太古の昔から変わらずに地球上を循環している資源でもあります。

このような循環を通じて，水は私たちの日常生活や社会活動，あるいは自然環境や生態系を支える貴重な役割を果たしています。加えて，最近では，水源や流域における水質の保全，水辺環境の保全と創出，おいしい水への志向など水資源に対する国民のニーズも多様化しています。

一方で，我が国は比較的降水量に恵まれているとはいえ，地形は急峻で平地が狭いため，一人ひとりが利用できる水の量は決して豊富とはいえません。近年，全国のいたるところで渇水が発生し，私たちの社会生活に大きな影響を与えています。

このような状況の中，水循環基本法では，８月１日を「水の日」と定めており，この日を初日とする１週間は，「水の週間」として，国や県が，水の貴重さや水資源開発の重要性などについての理解を深めるための様々な啓発活動を行っています。

「全日本中学生水の作文コンクール」は，こうした啓発活動の一環として，昭和54年から行われており，日常生活での体験や，御家族，先生方から学び聞いた話などに基づいて作文を書くことで，次代を担う中学生の皆さんに，水について考える機会を持っていただくことを目的としたものです。

県内の中学生から応募いただいた作文は，宮城県地方審査会を経て，中央審査会へ推薦しています。

平成23年３月11日に発生した東日本大震災の後，震災の体験を踏まえた内容の作文が多く寄せられたほか，日々の学習や身近な体験・発見から生まれた「水を大切にする心」が率直に綴られた作文もありました。これら作文の中から，今回の宮城県地方審査会における優秀作品を御紹介します。ぜひお読みいただき，皆さんが「水を大切にする心」をいつまでも持ち続けるとともに，一人でも多くの方々にその心を広めていただくようお願いします。

令和４年８月

宮城県環境生活部環境対策課

もくじ

●優　秀　賞（３編）

・緑が育む美味しい水　仙台市立郡山中学校　増川　智穂 ………… 1

【中央審査会　入選】

・水でつなげよう！美しい自然を　気仙沼市立松岩中学校　佐藤　里桜 ………… 2

【中央審査会　佳作】

・今からできること　仙台市立郡山中学校　辻井　珠希 ………… 3

【中央審査会　佳作】

●入　　選（３編）

・できることから始めよう　仙台市立郡山中学校　斉藤　舞 ………… 4

・水との関わり方　登米市立津山中学校　佐々木結菜 ………… 5

・水が与えてくれたこと　仙台市立郡山中学校　佐藤　結愛 ………… 6

●佳　作（環境生活部長賞）（４編）

・水問題を解決するために　登米市立津山中学校　後藤　佑月 ………… 7

・水を大切にするために　岩沼市立岩沼中学校　小山　明桜 ………… 8

・水とともに生きる　岩沼市立岩沼中学校　河崎　太陽 ………… 9

・水力発電について　気仙沼市立松岩中学校　小松　愛日 ………… 10

●第44回「全日本中学生水の作文コンクール」募集概要 ………… 11

●「全日本中学生水の作文コンクール」中央審査会におけるこれまでの入賞者 ………… 13

【優秀賞】

緑が育む美味しい水

仙台市立郡山中学校
二年　増川智穂（ますかわちほ）

普段何気なく飲んでいる水道水。私は今まで、特に美味しいとも不味いとも感じてこなかった。しかし二年前の夏、家族と一緒に福島県の磐梯山に登った時、水に対する意識が変わった。

あの時に飲んだ水の味が忘れられない。磐梯山に流れる、弘法清水という湧き水の味だ。それは冷たくて澄んでいて、登山で疲れた体にぐんぐんとしみわたるような美味しさだった。水はこんなにも美味しいものだったのか。

なぜ、湧き水はあんなに美味しいのだろう。そんな疑問を抱き、湧き水の美味しさの理由について調べてみた。そして初めて、水の美味しさには「森林」が深く関係していることを知った。

日本に降る雨の中には、ちりや汚れ、汚染物質などが含まれている。まず、雨が森林に降って地下にしみ込む。そして、土の小さな隙間を通ってろ過されたり、土の中の微生物に汚れを分解されたりすることで、汚染物質が除去されて水が浄化される。さらに、土や岩の中のミネラルがバランスよく溶け出し、まろやかな飲み口の美味しい水になって、湧き水として出てくる、というしくみなのだそうだ。

私はこのことを知り、心底納得した。うっそうと広がる、深い緑の森林。あの磐梯山の大自然に育まれた弘法清水は、確かに美味しく感じるはずだ、と。弘法清水の美味しさの秘密は、磐梯山が抱く美しい森林にあったのか。

しかし、今、世界各地の森林は危機的な状況に置かれている。一分あたり東京ドーム約二・四個分、一時間あたりの量に直すと東京ドーム約百四十四個分の木が切り倒され、毎年およそ七百三十万ヘクタールの森林が地球上から消滅している。世界中で伐採される木の本数は毎年約百五十億本、などという話もある。

この先もこのままのペースで木々を伐採し続けていったら、近いうちに地球から全ての森林がなくなってしまうのではないか。いや、なくなるのは森林だけではないだろう。そこに暮らす多様な生物、きれいな空気、それらも全て失うことになる。そして、水。森林の力で浄化された、清潔で美味しい水も、得られなくなるのではないか。

また、森林に降る雨のほうにも、人間の活動が影響を及ぼしている。自動車の排気ガスや化学肥料などによって有害物質が発生し、その影響で酸性雨が降るようになっている。どんなに森林に水質浄化機能があったとしても、後に湧き水となる雨そのものに有害物質がたくさん含まれていれば、除去しきれないものが出てくるかもしれない。

森林や雨は、湧き水の安全や美味しさと深く関係している。弘法清水を含め、日本各地の、そして世界各地の水の美味しさを守るためには、水を育む自然環境をよりよいものにしていくことが重要だと思う。

そのために、私たちは何をするべきか。例えば、森にゴミを捨てないこと。木から作る紙の利用を減らすために、再生紙で作られた製品を使うこと。排気ガスを減らして酸性雨を防ぐため、近距離の移動は徒歩にしたり、自転車を使ったりすること。一つ一つの取り組みは小さいが、今、私たちにできることを少しずつ積み重ねていく、それが環境や水を守る第一歩になるのだと思う。

森林に降った雨が地中で浄化され、湧き水として再び地表に出てくるまでには、四百年ほどもかかると言われている。私たちが今、美味しい水を飲めるのは、四百年の間、森林を守ってくれた祖先たちのおかげだろう。では、今私たちが美味しい水を育む緑を守るということは、四百年後の地球に生きる子孫たちの水を守ること、ひいては幸せを守るということにも繋がっていくのではないだろうか。

【優秀賞】

水でつなげよう!美しい自然を

気仙沼市立松岩中学校
三年　佐藤（さとう）里桜（りお）

「海に行こう。」

釣り好きな父はそう言って、私達姉妹をよく海に連れて行った。私は海を眺めたり、波の音を聞くことが好きで、今では海に行くことが生活の一部となっている。

中学生になって、海岸のごみの多さが気になり、姉妹で拾い始めた。ペットボトルや空き缶、スーパーやコンビニのビニール袋。分別しながら回収する中で気になったのが流木だ。拾っても拾っても流木が岸に流れてくる。この二年間でどのくらい拾っただろうか。私の腕と同じくらいの太さの枝や中には五メートル以上の丸太まで。

なぜ、こんなに流木があるのだろう?私は木が育っている山と海をつないでいる川に原因があるのではと考え、調べてみることにした。

令和三年の夏、父と私達姉妹は岩手県一関市室根にやってきた。そこから、川沿いに歩き、海まで行こうと考えたのだ。目指すは津谷川が流れつく気仙沼市の小泉海岸だ。

水田や畑が広がる景色に川と集落が溶け込んでいる。水面には魚が泳ぎ、夏だというのにとんぼも飛びかっている。農作業をしているおじさんやおばさんに挨拶をすると、みんな挨拶を返してくれる。道路から見える山はきれいに植林されており、木が倒れ、山が削られらている様子もない。護岸工事されている川はごみも落ちておらず、木の枝も流れていない。水はとても澄んでおり、ゆっくりと流れている。川のある景色はなんてすてきなんだろう。私はとてもすがすがしい気分になった。しかし、あの流木はいったいどこからきたのだろうか?

山の中の一本道を歩いていくと、だんだんと民家はなくなっていった。道路脇は手入れがされず、草が生い茂っている。峠を越え、津谷川の流れに沿って山を下っていくと、護岸工事がなされておらず、山が削られ、倒れた木々が川に落ちている箇所があった。雨が大量に降れば木だけでなく、土砂も川にたくさん流れ込むのではないかと心配した。きっと、海岸の流木はこのようなところから流れてきたのだと思った。

たどり着いた海岸の砂浜はどこからか流れ着いたであろう流木がたくさんあった。もちろん、ビニール袋や空き缶なども…。

今回、歩いてみて、海と山は川によってつながっていることが実感でき、海の環境を守るためには山や川も大切にしなければいけないと思った。また、多くの山や川はそこで暮らしている人達が倒れた木を運んだり、山が崩れたところに植林をしたり、河原の草を刈ることで守られているのだと考えた。そこで、私達は積極的に山や海、川に関わり合い、自然環境を守るために行動していくことが必要だと思った。ごみを捨てず、あれば拾うこと。山を保護し、木を育てること。そして、関心を持って海や山、川に行き、自然を楽しむと共にその魅力を多くの人に伝えること。私は自分が体験した川のある景色のすばらしさを少しずつでも多くの友達に伝えたいと思っている。

身の周りにある様々な自然を一つ一つの点とした時にその点を結んでいるのは水だと考える。その水を大切に扱うことが私達の自然環境を守ることにつながると思う。水と結び付く持続可能な社会づくりのための一つ一つの行動が、やがて大きな輪となることで、自然豊かな美しい地球になるのだと考える。だからこそ、山や海を大切にするためにも水を大切にし、守っていくことが重要だと…。これから私は海だけでなく川や山、そして、日頃使用している家庭の水も大切にしていこうと思う。夏の思い出となったあの川の景色と大好きな海を守っていくために…。

【優秀賞】

今からできること

仙台市立郡山中学校
二年　辻（つじ）井（い）珠（たま）希（き）

私が通っていた小学校は、目の前に広瀬川がありました。小学校低学年のころから、広瀬川の生き物を調べたり、水質調査などの学習、広瀬川花火大会、広瀬川で遊ぼう！などのイベントで、たくさんの思い出があります。広瀬川は、仙台のシンボルとして多くの市民に愛されていて、「景観がすばらしい名水」にも登録されています。

そんな広瀬川で小学六年生のとき、学年全員で、ごみ拾いをしました。たばこの吸いがらやポリ袋、ダンボールなど、私達の身の回りのごみがたくさん捨てられていました。川へのポイ捨ては景観悪化や悪臭、水質汚濁などの河川環境悪下を招く原因の一つであり、河川利用を阻害し、利用価値を下げています。また、街でのポイ捨ては排水溝を通って川へ行きます。そのごみは川を流れて海へ行きます。そうすると、海の魚がそのごみを食べてしまいます。もしかしたら、私達が普段食べている魚はポイ捨てされたごみを食べているかもしれません。つまり、川でのポイ捨てだけでなく、街でのポイ捨ても、川、海、私達の生活にまで悪影響が及んでいるのです。自分達の生活、健康にまで影響があると思うとゾッとします。しかし、私達が川に及ぼしている悪影響は、このポイ捨てだけではないのです。

川が汚れてしまう原因には、大きく二つがあります。一つ目は自然系という自然が及ぼす影響。しかし自然系は川が汚れる大きな原因ではありません。川を汚している大きな原因は、私達人間が生活していく上で川を汚してしまうもの、人為的な汚濁です。これには家の台所、お風呂、トイレの汚れが原因の生活系、工場などの排水が原因の事業系、家畜のフンや農地の肥料などが原因の農業系、道路につもった車の排ガスなどが原因の面源系、その他川の中に捨てられたごみなどが原因となるもの、大きく五種類の原因があります。この、人為的な汚濁は、川の汚れの九割であり、特に生活系は八割を占めています。川の汚れを減らすということは、浄水施設を造るなど、簡単じゃないし、私達には出来ません。私達に出来ることは、汚れを増やさない、ということです。川の汚れは自然の中で流れていくうちに川の中の生き物などによって分解されてきれいになっていきます。しかし、川の中に汚れがたくさん入ると分解しきれずに川は汚れていくのです。

私達が川の汚れを増やさないためにできることは、難しくありません。普段の生活をほんの少し変えるだけで良いのです。まず、川の汚れの八割を占めていた生活系は、その汚れを流さないことが最も効果的です。油汚れなどは紙で拭いてから洗うこと。みそ汁や麺類の残ったつゆを流さないこと。シャンプーや洗剤などを使いすぎないこと。三角コーナーやろ紙袋などで、食品くずが流れないようにすること。簡単に言ってしまうと、食べ残しを減らす、きれいに食べる、ということをすれば、洗剤も減るし、油などが流れてしまう心配もありません。その他、ごみなどは、絶対に川に捨てないこと。これも重要です。

この行動がめんどうくさいと思った人もいるかもしれません。しかし、この行動は、川のため、とは言っても、最終的には私達のためなのです。私達が好きなときにごみを捨てて、適当に水を使っていれば、どんどん川は汚れていきます。そうすれば、楽しい思い出だった、川のイベントがなくなり、子供達が自然と触れ合う経験が減り、最悪の場合魚が食べられなくなるかもしれません。今は、川のことを考えなくても生きていけますが、何かあってからでは遅いのです。少しの行動で未来が変わるかもしれません。私は、行動に移してみようと思います。

【入　選】

できることから始めよう

仙台市立郡山中学校
二年　斉藤（さいとう）　舞（まい）

水はみんなにとってはなくてはならないもの。それは、人間だけではなく、地球のあらゆる生き物にとっても大切な命の源だ。人間が生きていくために必要な水は一人一日約三リットルだといわれている。だが、このわずかな水が手に入らず、世界では約7億人の人々が苦しんでいる。詳しいことを調べてみた。

世界人口の半数以上が水道を使えるようになった今なお、約7億人もの人が、安心して飲める水が身近になく、池や川、湖、整備されていない井戸などから水をくんでいる。多くの途上国では、水くみは子どもたちの仕事で、水の重さにたえながら、毎日遠い道のりを歩き続けている。疲れ果てた子どもたちには、学校に通う時間も体力も残されていない。子どもたちの多くは、池や川、野ざらしの井戸など、飲用に適さない水源に頼るしかなく、ようやく水源にたどり着いても、そこには多くの場合、泥や細菌、動物のふん尿などが混じった危険な水しかない。浄水処理をしないまま飲むと、抵抗力の弱い子どもたちは、たちまち下痢を起こしてしまうそうだ。汚れた水を主原因とする下痢で命を落とす乳幼児は、年間三十万人、毎日八百人以上にものぼっている。

さらに、手に入る水の量が少ないために、身体や生活環境を清潔に保てなくなると、子どもたちは肺炎などさまざまな病気に感染しやすくなる。とても不衛生な環境だということだ。

エチオピアの、私と同じ十三歳の少女は、朝早くから夕方近くまで、炎天下の砂漠を一日中歩いて、家族のために水をくむ。それでも手に入るのは、一人あたりわずか五リットル未満の茶色い水だけだ。

このようなことを調べて、私はとても驚いた。私と同じくらいの子どもたちが、水についてこんなに大変な思いをしていることを改めて知った。今まで私は、なにも気にせず水を使っていた。蛇口をひねればきれいな水が出てくることは、あたりまえだと思って十三年間過ごしてきた。しかし、いろいろなことを調べてみて、水の大切さを改めて実感した。

そこで私は、今の私にできることは何か、考えてみた。できるのであれば、今すぐアフリカへ行き、井戸をたくさんほってあげたい。きれいな水を、飲ませてあげたい。でも今の私には、まだそれはできない。だったらせめて、水の無駄づかいをしないようにしよう。いままで気にもとめていなかったシャワーの出しっぱなしや、ハミガキの最中の水の出しっぱなし…。そんな細かいところからでも、節水に気をつけていきたい。

そして、できるだけ水を汚さないように気をつけたいと思う。食器を洗うお手伝いをする時に、汚れた油をそのまま流していたけれど、これからは、そのまま流さずに、新聞紙などで拭き取ってから洗いたいと思う。私のできることはそんなことぐらいしかないけれど、蛇口をひねって水を使うときには、きれいな水が飲めることに感謝をして、大切に使いたいと思う。

この作文を書くにあたって、いろいろなことを調べてみたことで、水の大切さを実感することができた。なんの不自由もなくきれいな水を使うことができる私たちは、どんなに幸せなのかということを改めて感じた。これから生きていく上で、水の大切さを忘れてはいけない。そしてこれからは、きれいな水が手に入らない世界中の子どもたちのため、未来のために、私たちにできることを考え、それを実践していこうと思う。

【入　選】

水との関わり方

登米市立津山中学校
一年　佐々木（ささき）　結（ゆい）　菜（な）

私の住む地域は、数年前の台風により大規模な洪水が起きた。その洪水は中学校のすぐそばで起きたが、ハザードマップにも書かれていない場所であったため、対策が遅れ、住民の生活が元のように戻るまでずいぶんとかかっていた。

このように、日本では今、水害が非常に多く起きている。水の問題はこれだけでなく、世界では海面上昇という大きな問題も持っており、問題解決に追われている。

だが、私は人の生活に最も関わっているものも、また、水だと考えている。食事でも、清潔に保つにも、くらしの全てに水は関わっていると思うのだ。それでも、水と考えると負の面が少し多く感じてしまう。なぜかと思った私は、この課題を通し、もう一度水についてよく考えてみることにした。

私が考えたことの一つ目は、やはり水は私たちの生活に深く関わっていることだ。料理や掃除、洗濯などあたりまえのことも水がないとできない。このように深く関わっている分、水がないと行うことのできないことは多くあると思う。

二つ目、水がとても素晴らしいということ。一つ目にも繋がるが、私たちは水がないとこれまでの生活が営めない。これは、水が何にでも使えてしまうほど便利だということも表していると思う。だからこそ負の面が強く見えてしまう。例として、器用な人ほどできない所がよく見えてしまうなんてことはないだろうか。これと同様に、水が素晴らしいからこそ、負の面が強く見えてしまう。利点が生活にとけ込みすぎている分、とても強く負の面が見えるため、利点だけがイメージされることは少ないのかも知れない。

私はこの課題について考える中で、一つの疑問について、ずっと悩んでいた。それは、

「洪水や津波が無くなればいいのに。」

という考えについてだ。たしかに私も同じ意見をずっともっていた。だが私はこれまでの考えの中、一つ新しい考えができていた。それは、「水害は自然災害だから無くなることはないのに、なぜ無くなることだけを考え続けるのか」ということだ。これからも必ず水害は起きるだろう。だが、水害の恐ろしさや怖さは変わらない。なのに私たちの方は何も変わらなくていいのか、という思いなのだ。

私の思う水との関わり方は私たちがしっかり変わっていきながら正しく使うということだ。この思いは先程の考えから思ったことで具体的には、大切なものやないといけないものなどを、高い所に集めて置いておくなどすることによって守っていくという考え方だ。この考えが難しいことも分かっているが、変化を待つだけということは何の意味もないのではないかと思ってしまう。

私が生まれてから、何度かの水害が身近な所で起きているので、この土地に暮らす人々の苦労もまた、感じることが多い。水害直後の現場も見ているため、より、このままではいけないという思いも強くあるのだ。水害が起きるたびに直すだけでは人の心にも限界がきてしまうだろう。しかし、水のない生活など、人間には考えられない。利点が多くあることも確かなのだ。

両方の方えから私が考えたことは、水の恩恵を受けながら、自分の身はきちんと守る、という考えだ。水のたくさんの恵みを受け、さらなる進化を目指す。それと同時に、先程の例のように、自分たちの身をしっかりと守るのだ。もし、進化したことが防災の技術ならば多くの人を救えるかもしれないのだ。今よりも幸せがあふれるすてきな未来だろう。

水の恩恵を受けながら、自分の身をきちんと守る、という考えが私の思う良い水との関わり方だ。

【入　選】

水が与えてくれたこと

仙台市立郡山中学校
二年　佐藤結愛

私は過去二回の出来事から、水の大切さというものを学びました。

一つ目は、東日本大震災直後の出来事です。私は当時まだ一歳で記憶はあまりないのですが、小学校一年生の時の三月十一日に母から初めて震災による家の被害について聞きました。当時家はまだ新築だったため家自体に被害はありませんでした。しかし大きなゆれによって水道管が破裂し、約三日間断水となってしまいました。その三日間は親せきの家でお風呂を借りていたそうです。しかし私はこれを疑問に思いました。なぜ遠い所へ行って借りてまでお風呂に入らなければならなかったのでしょうか。体を清潔に保つというのは分かりますが、震災で大変な被害を受けていてそんな事を言っている場合ではなかったのではないでしょうか。しかし、母にそれを聞くと、

「じゃあいつもお風呂に入るとどんな気持ちになっているか考えてごらん。」

と言われました。そして私は言われた通りいつものお風呂での自分の様子を思い返してみました。すると、私にとってお風呂は、音楽を聴きながら歌ったり、家族とたあいもない話で盛り上がったりして家の中で一番心の安らぎを与えてくれる場所だということに気付きました。また、そのことに気付いたおかげで、震災のときに不安でいる時間がほとんどの中で少しでも心の安らぎを得る時間を増やすという目的で借りてまでお風呂に入ったということにも気付くことができました。さらに私はこの話を聞いて、水がなくなることによって心の安らぎを得る時間が減ってしまうと気付き、水の大切さを知ることができました。

二つ目は図書館で「水をくむプリンセス」という本を読んだときのことです。スーザン・ヴァーデさんが文章を書いたこの絵本には、アフリカのある水くみ少女の一日が描かれています。この本を読み、世界には学校にもいけず一日中水をくみに川へ行く子供がいることを知りました。また、この本を読んで発展途上国の水の普及について興味がわき、それから家のパソコンなどで調べていくようになりました。現在六億人以上の人々が安全な水源を利用できておらず、三百万人を超える子供たちが毎日重い水を運ぶために長い道のりを歩いています。しかし、その子供たちが運んでいる水の多くは、泥や細菌、動物のふんなどが混じった非常に危険な汚れた水です。またそれを浄水処理しないまま飲んでしまう子供が多く、汚れた水が原因となる下痢で命を落としてしまう乳幼児が年間三十万人、毎日八百人以上にものぼっています。また、他にもたくさん水が必要なものがある中で一回約二百リットルもの水を使うお風呂なんて毎日入れるわけがなく、心の安らぎを得ることなどできません。

しかしだからといって私たちに一体何ができるのでしょうか。

私は自分たちが使っている水をきれいに保つというところから始めたらいいと思います。食器を洗うときのことを思い出してみてください。特に何も考えずに油や残飯を水で流してはいないでしょうか。現在日本で問題視されている水質汚染の原因の約七十パーセントが、意外にも生活用水の汚れによるものだと言われています。それを解決していくには、一人一人がきれいな水が手に入ることを当たり前だと思わずに、世界には水に困っている人々がいるということを意識して日常で使っている水をきれいに保つことが非常に大切だと思います。そしてこの意識をしながら、ユニセフなどの募金にも積極的に協力し、できるだけ早く世界中の人々が安全・安心な水を飲めて、お風呂に入って心の安らぎを得ることができるという世界になる時が来ることを願っています。

【佳　作（環境生活部長賞）】

水問題を解決するために

登米市立津山中学校
三年　後藤（ごとう）　佑月（ゆづき）

私達の生活に欠かせない「水」。だが今、世界では、水不足や、水質汚染などの様々な問題が起きている。なぜこのような事が起きるのか。

一つ目の原因は、人口増加や産業の発展により、水の使用量が増えていることである。国連の新たな報告書によると、世界人口は現在の七十七億人から二〇五〇年の九十七億人へと、今後三十年で二十億人の増加となる見込みである。このまま人口が増えていくことで、水の需要に対して供給が足りなくなり、水不足はどんどん進むと考えられる。朝起きてから夜寝るまで、私達は様々な場面で水を利用している。飲み水はもちろん、歯磨きや洗顔、炊事にも水が欠かせない。私達の日常生活で用いられているこれらの水は、生活排水などとして海や川に排出される。このようなことで、水資源が汚染され、使用できる水は、さらに少なくなってしまう。

二つ目の原因は気候変動。今、話題のＳＤＧｓでも掲げられている問題が、水不足にも関係している。十七の目標のうち一つの問題、気候変動。これは、熱波や干ばつ、集中豪雨、大型台風などのこと。「気候に関する災害などが起きたとき、対応したり立ち直ったりできるような力を、すべての国で備えるようにする」などの目標が示されている。地球温暖化による、異常気象や降水量の変動。このことにより、水の利用可能量はとても不安定である。降水パターンの変動が激しくなり、月や季節ごとに水不足に陥る地域が多くなってしまう。この他にも積雪の早まりなど、気温上昇による問題も水源を減らす原因となっている。一方、異常気象による一定時期の大雨などは供給が多すぎるため、上手く水を使えなくなる。そして、水の汚染にもつながっていく。気候変動による影響は、地球温暖化にもつながっていく。悪いことがたくさん重なってしまうのだ。ＳＤＧｓの問題を解決するのはいつになるのだろうか。

三つ目の原因は、水源が守られていないことである。都市化が進むことで森林伐採も進んでいく。水を蓄積していた森も減少する。こうしたことによって、限りある水資源がどんどん減っていってしまうのだ。そして、排水による汚染。日本では浄水処理があるが、アフリカ諸国などでは、日々の生活を支える基盤となるガス・水道などインフラが整っておらず、汚染された水を飲み、命を落としてしまう場合もある。その数は年間三十万人、毎日八百人以上にものぼっている。汚染された水を使用せざるを得なくなり、安全で綺麗な水が減少していく一方であるということが分かる。手に入る水の量が少なくなり、清潔な状態を保てなくなると、病気にかかる可能性が高くなる。

このような水問題を解決するためにできることはたくさんある。

一つ目は、節水を心がけること。歯磨きや料理、お風呂、洗濯など。私達が普段生活している中で節水を出来る場面は多くある。水を出しっぱなしにしない。使う量だけ用意する、洗濯はお風呂の水を使うなど、工夫はたくさんできる。

二つ目は、生活している中で汚れを減らすこと。汚れのついたものは新聞紙などで拭いてから洗う、無駄にシャンプーや洗剤を使わないこと、などを考えることができる。

水不足の原因をふまえて、今、自分に何が出来るのか考え、実践し、継続していくことが解決のカギとなる。私達一人一人が日々の生活の中で少しずつ意識すれば対策につながっていく。自分に出来ることから始めていくべき時なのである。

【佳　作（環境生活部長賞）】

水を大切にするために

岩沼市立岩沼中学校
二年　小山明桜（こやまみお）

　私たちは普段から水道水を利用していますが、安全で衛生的に水を利用できる人は、実は世界で決して多くはありません。世界の人口の約三分の一である約二十二億もの人々が安全な飲み水を使うことができないのです。また、世界の半分以上である約四十二億人が、学校や公園などの公共施設で整備された清潔なトイレを使うことができていないという事実もあります。飲み水とトイレの二つが整っていないと、人々の健康に大きな影響を与えたり、水汲みのために女性や子供の自由な生活が奪われたりするなどの問題が起こります。また、地球温暖化による大干ばつなどの異常気象や人口の増加による水の使用量の増加、生活レベルの向上による生活排水の増加などの影響で、これからも水が不足することが予想されています。さらに都市化による乱開発が進むと、水田が消失したり、水を蓄積していた森が減少したりするなど水源が破壊されることにつながりかねません。その結果、水不足がますます悪化していくとも言われています。

　私が二歳の時に、東日本大震災が起こりました。そのとき、しばらく水道が使えなくなったそうです。私は小さかったので全く覚えていませんが、水のない生活はとても大変だったと聞きました。水を確保するために、父は市役所の給水所まで何度も自転車で往復したそうです。その水は料理や飲み物など口に入れるものに使い、トイレや手を洗ったりすることには、お風呂に溜まっていた水を利用せざるを得ませんでした。私の家にはたまたまお風呂に水を溜めていたので助かりましたが、お風呂に水を溜めていなかったため、トイレを流すことができずに困った家もあったそうです。お風呂に水を溜めるには、とてもたくさんの水が必要だったので、震災直後はお風呂につかることをしばらく我慢し、体を拭くだけにしたり、洗面器に汲んだ水で髪を洗ったりしたそうです。父は水のありがたさや、普段無意識に多くの水を使ってしまっていることを反省したと言っていました。日本は水が豊富で、水道の蛇口をひねればいつでも水が出てくるので、その便利さに慣れてしまっていたけれど、水が使えない生活になったことが、どうやったら水を使わずに済むかを考える良い機会になったそうです。私も、お風呂でシャワーを出しっぱなしにしている時があるので、節水に気をつけなければいけないと思いました。

　そこで、改めて私自身が生活の中で節水のためにできることを考えてみました。

　まず、水の利用方法を見直すことです。歯磨きや食器洗いなどに使う水を最低限に抑えていきたいです。例えば、シャワーや歯磨きのときに水を流しっぱなしにしないように気を付けたり、食器洗いや洗顔をするときには桶などに水を溜めて使ったりと無駄にしないようにしていきたいと思います。

　次に、生活排水の汚れを減らしていきたいと考えました。例えば、シャンプーや洗剤を使い過ぎないことや汚れた食器は新聞紙で拭いてから洗うことなどを実践していきたいです。また、ジュースの飲み残しを減らすことも有効だと思います。なぜなら、醤油十五ミリリットルを捨てた場合、魚が棲めるくらいきれいな水に戻すためには、お風呂二杯半分に当たる四百五十リットルもの水が必要になるからです。

　もしも、日本も水不足になってしまったら、とても不自由で大変な暮らしになってしまいます。その前に、深刻な水不足にならないように、今の危機的な状況にどう対応していくか、真剣に考えていくことが私たちには大切だと思います。

【佳　作（環境生活部長賞）】

水とともに生きる

岩沼市立岩沼中学校
二年　河崎太陽

僕は、釣りが好きで、週末によく行っていました。時には、遠い所の海にまで行き、数十匹釣ったりもしました。魚は、きれいな海にたくさんいるものです。しかし、最近は開発が進み、きれいな海が減ってきています。私は、きれいな海を守りたいと考えたとき、水の大切さについて少し考えてみたいと思ったのです。僕をはじめ、「水」の大切さについて考えたことのある人は、あまり多くはないのではないでしょうか。

まず、水という漢字の成り立ちですが、この字は水の流れを描いた象形文字です。身近なところでは水は川を流れていますが、実際は川以外にも、地下を流れていたりします。木などの植物にとっても水は大切なものです。

その水の使用についてですが、人間は水を私たちの飲み水や料理、洗濯、風呂、水洗トイレなどの日常生活で使います。その他にも農業や工業、水力発電などにも使い、私たちの生活に欠かせません。日本の主な家庭用水の使用割合は、四十パーセントが風呂、二十一パーセントがトイレ、十八パーセントが炊事、十五パーセントが洗濯、六パーセントがその他ということを調べてみて分かりました。二〇一八年の日本の水の使用量は、七九・三〇立方キロメートルで、世界の水使用量のランキングで十位と上位にあります。ちなみに一位は、インドで、七六一・〇〇立方キロメートルで、日本の約十倍にもなり、すごい量だと舌を巻くばかりです。

このように世界でたくさん水が使われると、水を使えることが普通になり、その大切さについて忘れてしまいます。日本では、蛇口をひねれば水が出てきますが、世界ではどうなのでしょうか。実は、世界にはまだまだ水不足の国がたくさんあります。蛇口をひねれば当たり前に水が出てくる日本では普通に感じられても、世界ではまだそのようなことができない国もあるのです。そのような国の人たちは、必死に水を集めて生活しています。日本人にしても、水を使えることにありがたみを持って生活することがやがて大切になってくるのではないかと思います。

他にも日本では、水道水が飲むことが出来ます。これは、普通のことではありません。実は、水道水が飲める国は十五カ国だけなのです。それは、日本、アラブ首長国連邦、アイスランド、アイルランド、オーストリア、クロアチア、スウェーデン、スロベニア、ドイツ、フィンランド、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、モザンビーク、レソトの十五カ国です。水道水が飲めない国が多い理由として、主な原因は、国土の面積やコスト面などの問題からです。発展途上国では水道自体がない国も珍しくありません。そのような人たちは水をくみに長時間歩いたりして水を得ています。

このように人は水を重要とし、生活しています。もし生活の中でこのかけがえのない水がなくなったらどうなるのでしょうか。私たちの生活のほとんどが、水が関係していると思います。人の体も六十パーセントが水でできています。水がなければ生活していくことが厳しくなります。今、世界でも水不足が深刻になっています。日本でもいつ水不足になるかは、分かりません。今のうちから水を使えることに感謝し、大切に水を扱うことが未来の世界へとつながることになると僕は考えるのです。人間にとっても、植物、動物、そして水に生きる魚にとっても、地球上に生きるすべての生き物になくてはならないのが水です。僕も、大好きな釣りがいつまでもできるように、これからも水のありがたみについて積極的に考えていきたいと思っています。

【佳　作（環境生活部長賞）】

水力発電について

気仙沼市立松岩中学校
三年　小松愛日

私の住んでいる宮城県気仙沼市は、漁業、養殖業が盛んです。最近、近くの島と橋が開通し、観光にも力を入れて来ていると思います。そんな気仙沼の産業について一人一人テーマを決めて探究する授業がありました。私は気仙沼の近くにある「水」と「ＳＤＧｓ」そして「発電」を絡めて探究することにしました。

少し前から水に興味があった私は、海に面している気仙沼なら再生可能エネルギーの水を使った水力発電を行っているにちがいないと思っていました。しかし、調べてみると火力発電や風力発電、太陽光発電は行っているのに水力発電は行われていませんでした。なぜ海に近く水産業が盛んなのに水力発電を行っていないのでしょうか。

第一に気仙沼にはダムがありません。水力発電は水が上から下に落ちる運動エネルギーをモーターによって電気エネルギーに変化させ発電しています。そのため、高い所やダムの近くに発電所がよくあります。この条件に当てはまる場所が少ないことが気仙沼に水力発電がない一つの理由です。

第二に、水産業に影響を及すことが挙げられます。ダムを建設することや高い所に発電所を建てるにはまず森林を伐採しなければなりません。それでは二酸化炭素削減することができず、持続可能な社会に貢献することができません。また高い所に建物を建設する費用。電気を住宅まで運ぶ配線。建設にかかる労働費などたくさんの費用がかかります。そして海と森はとても深い関係があります。森林伐採すると森の環境が変わり、海の水質が変化してしまいます。水質の変化によって水産業に影響があったら気仙沼の人々はひとたまりもありません。それが気仙沼に水力発電所をつくらない最大の理由なのではないかと思います。

地形の影響や水産業に力を入れている町だからこその問題点、課題点がありました。このような発電方法は他にもあります。原子力発電です。燃料であるウランは再生可能エネルギーで多くの電力を作り出しています。ですが、高レベルな放射能物質を抱えて、核燃料の処理について難点があることを調べて知りました。処理水を海洋放出するのは水に生きる生物をはじめとする生態系を壊すことになり、私は少し不安になりました。また、発電所の解体にもリスクや資金がかかるようです。水力発電所と同じでメリット・デメリットを考えて使用されていると知りました。

この結果について、水力発電の探究結果を発表した際先生から、水力発電所、原子力発電所も建設はせず今ある発電所を使っているということを教えてもらいました。原子力発電所の近くでは事故が起きたときの避難訓練も行っているみたいです。

この探究活動を通して、水と森との関係の重要さ。処理水の海洋放出についてなど新しく知れたこと。新しくできた問題点・疑問点がありました。他にも私は海流ごとの水質の違い。簡易的な新鮮な水を得る方法など知りたいことがたくさんあります。またいろいろなことを探究していきたいです。

《第44回「全日本中学生水の作文コンクール」募集概要》

1　作文のメインテーマ

「水について考える」（題名は自由）

2　応募資格

令和４年度に在学中の中学生

3　原　　稿

400字詰原稿用紙４枚以内で，日本語により表記された個人作品に限ります。

4　応募締切日

令和４年４月27日（水）必着

5　応募方法

作文には，本文の前（原稿用紙枠内）に①題名，②学校名（ふりがな），③学年，④氏名（ふりがな）を記入し，次の送付先に示す宛先に送付してください。

6　問合せ・送付先

〒980－8570　仙台市青葉区本町３丁目８番１号
宮城県環境生活部　環境対策課　環境影響評価班　あて
問合せ先　電話：022－211－2667（直通）
　　　　　Ｅメール：kantaie@pref.miyagi.lg.jp

7　審　　査

応募作品の中から，県の地方審査会（県予選）で内容が優秀と認められる作品10編以内を選考し表彰します。また，これらの中から特に優秀と認められる作品５編以内を選考し，国土交通省の中央審査会（全国大会）に推薦します。

なお，選考に当たっては，次の観点から審査します。

・抽象的あるいは観念的なものでなく，日常の生活や学習，地域における水とのかかわり等を通じて得たことが，具体的に盛り込まれていること。
・「テーマ」が的確に設定されており，水の貴重さや水資源開発の重要性，水環境の大切さ等が，中学生らしい視点で記述されていること。
・将来の夢や希望，提案等が盛り込まれていること。

8　賞及び賞品

⑴　地方審査会（県予選）

・優秀賞：３編以内（賞状，副賞）
・入　選：３編以内（賞状，副賞）
・佳　作：４編程度（賞状，副賞）

⑵　中央審査会（全国大会）

・最優秀賞（内閣総理大臣賞）：１編（賞状，副賞）

・優秀賞：９編程度（賞状，副賞）

・入　選：30編程度（賞状，副賞）

・佳　作：中央審査会へ作文が送付された者のうち，最優秀賞，優秀賞，入選の受賞者を除く者全員（記念品）

・一日事務所長体験：最優秀賞及び優秀賞受賞者のうち，希望者

9　入賞発表

⑴　地方審査会（宮城県予選）

在校する中学校を通じて御連絡します。

⑵　中央審査会（全国大会）

在校する中学校を通じて御連絡します。

※入賞作文については，作文のほか，記載された学校名，学年，氏名を国土交通省及び宮城県のホームページや作品集に掲載するほか，宮城県庁内での展示や報道機関を含めた関係者へも提供することとなりますので，予め御承諾の上，御応募ください。

10　版権等

・応募作品は自作の未発表のものに限ります。

・入賞作品の使用権は，主催者に帰属します。

・応募作品の返却は行いません。

11　個人情報の取扱い

本コンクールの応募作品に記載の個人情報は，本コンクールの運営に必要な範囲内で利用します。応募者の同意なく，利用目的を超えて転用することはありません。

12　その他

下記ホームページに募集案内を掲載していますので，御参照願います。

〇国土交通省

https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/tochimizushigen_mizsei_tk1_000010.html

〇宮城県

https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kankyo-t/mizusakubun.html

「全日本中学生水の作文コンクール」中央審査会における本県のこれまでの入賞者

年度	賞	中学校名	学年	氏　名	作 品 名
第１回（Ｓ54）	国土庁水資源局長賞	仙台市立五橋中学校	3	阿部　克也	大切な水を考える
第２回（Ｓ55）	入選	石巻市立住吉中学校	3	池田真希子	水は生命の泉
第５回（Ｓ58）	入選	仙台市立八木山中学校	3	渡辺　保之	循環の運命をにぎるもの
第6回（Ｓ59）	国土庁水資源局長賞	仙台市立八木山中学校	3	中村　起也	すばらしい贈り物
第10回（Ｓ63）	入選	七が宿町立関中学校	2	村上　真希	一滴の水の中に
第11回（H元年）	入選	仙台市立八軒中学校	2	杉渕　幹樹	潤いをもたらすもの
第12回（Ｈ２）	入選	河南町立河南西中学校	3	遠藤　久美	水と私たち
第13回（Ｈ３）	入選	仙台市立第一中学校	3	石川あかね	山上清水を守ろう
第15回（Ｈ５）	国土交通大臣賞	白石市立小原中学校	1	斉藤　学	水のありがたさ
第16回（Ｈ６）	国土庁20周年記念特別賞	仙台市立第一中学校	3	佐藤　愛	大地からのプレゼント
第17回（H7）	入選	仙台市立第一中学校	1	渋谷　智子	水はみんなの友達
	入選	宮崎町立宮崎中学校	3	庄子　まり	水に命をかける人
第18回（Ｈ８）	入選	仙台市立第一中学校	2	渋谷　智子	四谷用水にまなぶ
第19回（Ｈ９）	入選	仙台市立第一中学校	3	渋谷　智子	水と共に生きる
第20回（H10）	入選	本吉町立津谷中学校	2	三浦　大樹	貴重な資源の水
第21回（H11）	入選	気仙沼市立松岩中学校	3	佐々木恵美	私たちが守る美しい水
第22回（H12）	入選	仙台市立七郷中学校	3	木村可奈子	水とともに生きる
第25回（H15）	入選	石巻市立稲井中学校	3	鈴木　舞	水が大好きな祖母
第26回（H16）	入選	鳴子町立鬼首中学校	3	遠藤　愛子	水との絆
第30回（H20）	入選	石巻市立石巻中学校	3	杉山　智香	水と共に生きる
第33回（H23）	国土交通大臣賞	石巻市立石巻中学校	3	西牧　奏	水のある風景がなくなって
第34回（H24）	入選	石巻市立河南西中学校	3	阿部　美樹	初めて気付いた“水とは何か”
第36回（H26）	入選	石巻市立稲井中学校	2	勝然みなみ	少しの意識で変わる未来
第37回（H27）	入選	登米市立中田中学校	3	渡邊ちなみ	「意識」を変えろ
第38回（H28）	入選	石巻市立河南西中学校	3	土田　琴未	「水」への感謝
第39回（H29）	入選	女川町立女川中学校	3	阿部　陽菜	感動を後世へと伝える
	入選	大崎市立古川西中学校	3	福原　史乃	未来への課題
第40回（H30）	内閣総理大臣賞	宮城県仙台二華中学校	3	井崎　英里	時をこえて～未来へ～
第42回（Ｒ２）	入選	仙台市立郡山中学校	3	大柿　楽々	水を守る～野蒜の地から学んだこと～
	入選	宮城県仙台二華中学校	3	西原　結花	水と共に生きる
第44回（Ｒ４）	入選	仙台市立郡山中学校	2	増川　智穂	緑が育む美味しい水

令和４年８月発行

宮城県 環境生活部 環境対策課

〒980-8570　仙台市青葉区本町三丁目８－１
ＴＥＬ　022（211）2667

VEGETABLE OIL INK

この冊子は350部作成し、１部あたりの印刷経費は259円です。